

第75号

発行日: 令和6年10月1日

発行所: 東京青山同窓会事務局

〒111-0032

東京都台東区浅草 3-8-2-1101

工藤 義夫 (74回)

e-mail: info@tokyo-aoyama.org

TEL: 090-1704-2413

HP: https://www.tokyo-aoyama.org/

発行者 日下部朋子 (82回)

東京会報

東京青山同窓会

—東京青山同窓会年間維持費—

1口1,000円/2口以上(年間)

会計幹事: 高山佳郎 (83回)

振込先: 極力①をお願いします。

①郵便振込口座 00150-9-4074

加入者名 東京青山同窓会

②三井住友銀行京橋支店 普 8430640

東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

令和6年・東京青山同窓会《総会 & 新人歓迎会(128～132期)》2024.6.29(土) 昼

記・事務局

工藤義夫(74期)

集合写真～全70名

レストラン「アラスカ」日本プレセンター店～日比谷街



新人たちと

ますらお合唱



今日の主催者: 94期生

朗読: 松井みどり



校歌斉唱



<会計担当: 高山佳郎(83期)> 年会費2千円の納付先

①郵貯銀行: 00150-9-4074 または

②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

問
合

<事務担当> ～ よろずご連絡など ～

事務局長: 工藤義夫(74期) 090-1704-2413

info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

本年・2024年は <母校創立132周年> ... 三世紀に亘って!

♪青陵♪
(中学校歌: 1922)

1954(S29)焼失

↓ 同年

青山同窓会発足

↓ <1～4期工事>

1960(S35)完工

♪女子入学♪
(1950年: 61期・数名)

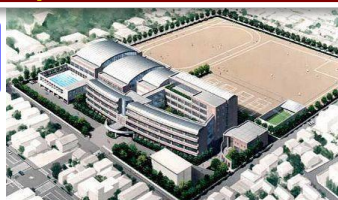
<現校舎>

1999年～

(平成11)

男女比: 半々

全県一区



未来へ

「令和6年 東京総会 & 新人(128~132期)歓迎会」~94期生主催

記・事務局
工藤義夫(74期)

東京会長挨拶 佐藤 信秋 (74期)

◆大災害にどう備えるか◆

前回春号では1月1日に起きた能登半島地震マグニチュード7.6について書きましたが、今回また8月8日に日向灘地震マグニチュード7.1が起きたので、今後残念ながら予想される大災害に、どう備えるか？少し書いてみます。今のままでは、南海トラフでは30万人以上、首都直下地震では2万人以上の死者が出る事が予想されています。いずれも今後30年間で確立70%以上で起こるものと予想されています。これを各々の基本計画では事前防災・減災で今後10年間で概ね8割から半分減少させたいとしています。そんなにうまく行くのでしょうか？首都直下の場合、兎に角、人口・財産が集まり過ぎているので、これをできるだけ地方分散、ふる里回

帰して頂く必要がある、と思っています。可能なら2地域居住なども如何でしょうか？その為には、ある期間、都市計画や建築基準法を臨時に変えて、100年200年がかりで望ましい都市等を形成する、という理念は活かしつつ、緊急措置として、容積率・建蔽率等のボーナス等はずんで、古い建物や木造密集地域の建替、再開発等を急ぐ、ということが必要ではないでしょうか？例えば容積率を倍にして事業が進み易く、採算とり易くして戻ってくる人達も廉価に入れる街をつくるなど。もう待った無しです。新潟に多くの皆様が回帰、移住できるようにしたい、と思っておりますが、如何でしょうか？ 以上。

2024年総会報告 工藤義夫 (74期)

コロナ後4年振り再開の昨年に続き開催。梅雨間合やヤシ・暑い6月29日(土)昼。会主催は去年の90期に続き、今年は94期生有志9人が企画し、見事に主催した。

ワンパターンでなく独自企画も楽しい。佐藤信秋東京青山同窓会長、吉田至夫青山同窓会長の各ご挨拶、市野正廣学校長からは母校音信。旧3学年の先生も3人。メインイベント『朗読』の30分間。語りは94期で元フジテレビアナウンサーの松井みどりさん。父と娘の心の葛藤...静かに心に沁み入る物語だった。ここでお待ちかねのランチ。参加最長老62期の渡辺千里さんの乾杯ご発声。食事は都合により例年よりアップグレードしたbuffetで楽しみ歓談。第二部新人歓迎会。128~132期の9人を歓迎。壇上の新人各期代表3人の返礼(128期・本間千裕さん、130期・乙川文隆君、132期・村尾泰治君)。校歌斉唱・ますらお合唱。

90期の森豊君の音頭で、130期の乙川文隆君のエル役で唱和。写真撮影後、総会行事の2時間を終え、残る1時間は自由歓談。書籍紹介2名(昭和46年名誉教授65期の中谷一泰氏と、東大名誉教授70期の猪口孝氏)。コピーライター117期畑山雅俊君の新潟ショップ「THE NIIGATA」紹介。閉会后、さらに20人が新橋で二次会。来年は6月28日(土)昼・同会場で。主催は100~105期生有志で、乞うご期待を！

... 真砂なす無数の青山同窓生の中に
君に向かいて光る星あり... (正岡子規句の替句)



《第95回》東京青山同窓会 2024年度 総会/新人歓迎会 (新人:128~132期 再生)			
◆ 来賓 ◆			
青山同窓会長			
79 市野正廣 様			
青山同窓会・副会長			
98 谷川 一 様			
新潟高校・学校長			
101 市野正廣 様			
旧3学年・学年部長			
104 谷川 一 様			
旧3学年・ご担当			
107 渡辺 聖史 様			
◆ 二次会:20人 ◆			
新橋駅烏森口近く			

“新人(132期)”寄稿 ～よろしくお祈いします～

<各組・幹事9名・他>



132期

大学でも部活動に参加し、よりレベルの高い環境に身を置いて日々練習しています。高校の部活動で培った忍耐力や向上心を活かして大学でも様々なことに挑戦していきたいと思っています。最後になりましたが、青山同窓会の一員とすることができ大変光栄に思います。青山同窓会の名に恥じないよう、日々精進していきたいと思っています。

<新井 壮大 ～ 4組クラス幹事>

第132期4組クラス幹事の新井壮大です。現在は慶應義塾大学の理工学部在籍中。高校時代はソフトテニス部に所属していましたが、部員が少なかったこともあり、かなり親密な関係を築くことができて本当に良かったです。知り合いがほとんどいない状態から東京での生活がスタートしましたが、その時も部活の仲間たちにはとても助けられました。学生時代を共にした友人は一生大切にすべきものだと思改めて感じます。これまでにできた仲間との関係を大切にしながらも、一生付き合っていける友達と大学でも出会うことができたら嬉しいと思っています。また、最近では将来の自分の姿をイメージしながら、AIなど、新しいことを積極的に勉強しています。恵まれた環境を最大限活用して、成長できるよう精進します。至らぬ点も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

<羽ヶ崎 ひなた～5組クラス幹事>

第132期5組クラス幹事の羽ヶ崎ひなたです。現在は日本大学芸術学部在籍中。高校時代は写真部に所属し、カメラと共に3年間を過ごしました。私にとって高校生活は大きな転換点になったと感じています。多くの友人と巡り会い、学習面でも精神面でもさまざまな刺激をもらいました。そして何よりも、写真部の仲間と活動できたことがとても大切な経験となりました。現在、大学では主に写真の技術や歴史、表現について勉強しています。大学にはさまざまな芸術分野を専攻する人がいるため、写真以外の芸術表現にも幅広く触れることができ、楽しくて刺激的な毎日を送っています。施設や機材が整った環境があり一緒に作品を制作する仲間もできて、写真に打ち込める幸せを感じています。大学4年間でさまざまなことに挑戦し高校以上に充実した生活を送れるように頑張りたいです。

<吉田 瑞希 ～ 6組クラス幹事>

第132期6組クラス幹事を務めることになりました、吉田瑞希と申します。高校時代はバドミントン部に所属しておりました。バドミントンは高校から始めたということもあり、最初の頃はうまく行かないことが多かったのですが、いい仲間にも恵まれ、切磋琢磨し合い、着実に上達することができたと思います。現在は横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科に在籍しています。この学部は文系系が合わさった学部であり、広い視野での学習が可能となっており、都市開発や地球環境問題、社会問題などの授業を中心に受講しております。一人暮らしにも少しずつ慣れ、アルバイトやサークル活動など、充実した日々を送っております。大学生活を有意義なものにするため、失敗を恐れず様々なことに挑戦していきたいと思っています。まだまだ至らぬ点も多いとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

<大平 菜摘 ～7組クラス幹事>

第132期7組クラス幹事を務めます、大平菜摘と申します。高校時代は生徒会執行部、茶道部に所属していました。生徒会執行部では部員の前に立つ役職に就き、精力的に活動していました。放課後の生徒会室で仲間と一所懸命に活動していた日々が昨日のこのように思い出されます。現在は、東京理科大学経営学部ビジネスエコノミクス学科に所属し、経済学やマネジメント、統計などを学んでいます。これまでの勉強とはまた違った、専門性をもつ内容を学ぶことの楽しさを感じています。大学では、高校までとは比べものにならないほど多くの機会があります。交友関係を広げる機会、新たな趣味を見つける機会、今自分が持つものをさらに磨く機会…。訪れた好機をいかに逃さず捉えることができるかが大事であるとはよく耳にすることがありますが、限られた大学生活の中で自分をレベルアップする機会を積極的に見つけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

<村尾 泰治～ 8組クラス幹事>

この度132回8組幹事をさせていただくこととなりました村尾泰治と申します。高校時代はクイズ同好会に所属していました。3年間を通して沢山の知識に触れ、大会等で様々な地域や年代の方と関わることで、受験勉強とは一味違った多くの学びを得ることができました。同好会ということもあり校内外からの知名度は高くないのですが、甲信越・北陸トップクラスの強豪として積極的に活動しています。是非応援やSNSのフォロー等よろしくお願い致します。さて、私は現在東京大学理科二類に在学しています。生物の講義が多い、選択講義が沢山取れるという私の期待とは裏腹に春学期には数学と物理をはじめとした必修講義でほぼ授業が埋まっていたのですが、苦しみつつも楽しくここまで約半年間学んできました。人生で初めて新潟を離れ今までは異なる課題に行き当たったことも未だに多くありますが、新潟高校での日々と学びとともに過ごしていきたいと思っています。これからよろしくお願いします。

<齋藤 惺葵 ～ 9組クラス幹事>

第132期9組幹事の齋藤惺葵です。現在、北里大学医学部に在籍し、将来は新潟県の医療に貢献するため、日々努力を重ねています。高校時代には男子バレーボール部に所属し、先輩方が成し遂げてきた文武両道の厳しさを身をもって学びました。しかし、大学ではバレーボール部に正式には参加せず、免疫学の研究室に所属しています。1年生の段階では、知識が圧倒的に不足しているため高度な実験には携わることができませんが、真理追究に1年次から関わられることを大変嬉しく思っています。特に、高校生の頃は教科書でしか見たことのなかった実験を自分の手で行えることに感動し、生命への理解をより深めています。新潟高校は、学問に対する姿勢を身につけることができた、私にとって非常に大切な場所です。日々、感謝の気持ちを忘れずに精進し、将来は地元新潟に恩返しをしたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

参加者



<本間 佑一郎 1組クラス幹事>

第132期1組クラス幹事の本間佑一郎です。現在筑波大学人文・文化学群人文学類に在籍しており、考古学を専攻しようと考えています。私が筑波大学へ進学した理由の1つは一人暮らしができるからでしたが、様々な事情で大学の学生宿舎に入居することになりました。宿舎生活では多様な価値観の人がいるのだと実感させられてばかりです(ぜひ寮生には夏場の共用台所に生の食材を何日も放置するのをやめていただきたいものです...)。協調性や忍耐力が鍛えられる良い経験をさせてもらっていると同様に与えております。高校時代にフェンシング部に所属していました。何か新しいことがたくて始めたのですが、対人競技という性格が自分に合わなかったこともあり、あまり上達しませんでした。しかし偉大な先輩方から直接ご指導いただき、貴重な経験をたくさんさせていただきました。ご指導くださった方々には大変感謝しております。フェンシング部での経験も含め、新潟高校で過ごした日々を誇りとしてこれからも邁進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

<乙川 文旺 2組クラス幹事>

132期2組クラス代表を務めます乙川文旺です。東京大学文科一類に在籍し、現在は教養学部前期課程において文系・理系の枠にとらわれない幅広い学習に励んでいます。また、様々な面においてレベルの高い友人に恵まれ、刺激に尽きない充実した日々を過ごしています。高校時代はフェンシング部と生徒会執行部に所属していました。大学入学後もフェンシング部に入部し、先輩や友人とともに技術の向上に邁進しています。新潟高校を卒業してから気づけば半年が経とうとしており、時の流れの速さを実感しています。後期課程では法学部に進学する予定で、国際法や国際政治学を学び、将来は外交官として日本の国際的地位向上に貢献したいと考えています。新潟高校での学びは、間違いなく大学在学中や将来の役に立つと思っています。これまでも、そしてこれから学びを大切に、社会に貢献する青山同窓生になれるよう精進してまいります。

<小山田志信 3組クラス幹事>

第132期3組クラス幹事を務めることになりました、小山田志信です。現在、一橋大学商学部在籍中。以前から強く憧れていた大学で学びを深めることができ大変嬉しく思っています。また様々な学問の入門に触れていますが、これから先の学問の世界がどれほど広大なものなのかを想像するだけで好奇心が刺激されます。高校時代はバドミントン部に所属していました。バドミントンは高校から始めたので、周りの経験者と実力に差があり精神的に辛い時期もありましたが、部活の仲間と支えられて3年間続けることができました。 続

↓ 2024. 6. 29 【東京青山総会・新人歓迎会】 ～ 日本プレスセンタービル内「アラスカ」



2024年～74回生の東京同期会【 酔都志会 (よいとしかい) 】

記・幹事
工藤義夫(74期)

◆ 酔都志会<喜寿・R6> 2024.5.25(土) 12～15時 コモンカフェ・丸の内店 ◆

★初めてランチタイムのイタリアンにしました ～ 土曜・丸の内界限★ 東京・青山74回卒 ～ 30名



↑ 石黒 稔 田澤博史 坂井 靖 中村義一 大滝 均 池田 裕 高橋 保 木村喜蔵 <徳原正春>
 工藤義夫 谷中健治 解良和郎 竹ノ内明 岩城修平 池田正行 大石憲一 石井明 伊藤 宏 高橋信郎 原信一 鈴木芳造
 菊池 隆 西田百合子 小林淳子 葉 美江 島津満里子 川田澄子 安田雅子 丸山直人 平井ゆき子

◆74期の東京同期会(酔都志会)は1978年(昭和53年＝卒業8年後)からほぼ毎年～途中数年おき～開催。新潟は卒後5年毎に開催も卒後50年の2016年で公式には終了。しかし、東京では2015年以降は毎年開催中。すでに同期は52人が亡くなっているが、集まれるうちは継続したいと思っている。…生きているうちは…まだまだ続く…。 担当；工藤義夫◆



76回生の東京同期会【75歳記念】5年振り再会～2024.5.27

記・代表幹事
西沢芳樹(76期)75歳・後期高齢者
記念東京ガーデンパレス
(御茶ノ水)

天野 近藤 板羽 近藤 伊奈 村山 三五 傳川 湯本 大山
山際 湊 水間 中谷 田代 石野 明村 大竹 桜井 賀谷 林
三沢 伊藤 松野 加澤 川上 長澤 田中 八田 青山 渡辺 星野 佐藤 梶井 五十嵐 市川 西沢
阿部 梅田 長北 福田 中川 古川 曾田 鷺尾 岸田 澤田 山内 岩橋 田村 大塚
小笠原 古川原 田代 青柳 尾張

◆ 76回生の東京同期会(後期高齢者到達記念) ◆

われら1968年(昭和43年)卒の東京同期会は、①第1回目に卒業15周年(100名)にて開催以降、②卒業30周年(90名)、③卒業40周年(69名)、④ほぼりタイア記念(73名)、⑤全員66歳記念(68名)、⑥古希記念(65名)として、過去6回開催してきました。今回7回目となる「後期高齢者到達記念」を、2024年5月27日13:00から、御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催しました。当日は、首都圏以外からの新潟10名、札幌・神戸・岡谷から各1名の遠方参加者を含め59名(うち女性5名)が参加し、コロナ禍のため前回から4年半ぶり、さらには卒業以来の再会もあり、お互いに「元気だったか」の声があがっていました。前回からの間に、年齢からくる体調不芳となった者も増え、参加者数が伸びなかったのは已む得なしと理解しています。

同期会は、今回の案内での判明さらに開催当日判明した方々を含め物故者64名(物故率12.4%/卒業者515名)の報告と弔意表明、東京青山同窓会現状報告、乾杯を経て、久々の楽しい歓談時間を過ごしました。その後の「全員の近況報告」は必須アイテムとして、1人1分以内計60分間の時間内に、参加者の協力のもと全員のひとこと報告を行うことができました。今回は、時間管理に鈴を使ったのが有効だったと評価されました。最後に応援歌(丈夫)斉唱、集合写真撮影を行い、次回開催を2年後(77歳となる喜寿記念)と約して同期会閉会としました。

さらに2次会を16:00から2時間、秋葉原駅近の店にセットしており、徒歩移動にて27名(46%)が参加し、更なる旧交を温める時間を共有できました。名残惜しく3次会も10名ほどで開催しました。今回も参加者の皆さんから開催に対し感謝の言葉をいただき、幹事としての喜びになりました。76回生の東京同期会が継続できているのは、10組のクラス幹事11名が、開催前の企画会集合、名簿確定作業、当日運営担当などと、同期生の方々が喜んでくれることに、ボランティア精神を発揮してくれていることです。われらが元気なうちは今後も開催していく予定です。

幹事代表 西沢芳樹



“2024年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

手堅くニュースを届ける報ステ・大越健介キャスターの流儀

2024年5月11日 朝日新聞 引用

大越健介(ニュースキャスター)
<青山88期> 元NHK→TVA報道キャスター

《大越健介 プロフィール》

1981年8月、寺泊生まれ。新潟市石山中学→新潟高校→東大国文科卒。高・大と野球部で投手。高校は春準優勝、夏8強。大学では8勝27敗。日米大学野球では後年のメジャー本塁打王マグワイアとも対戦。NHKでニュースW9のキャスター等務め、60歳でテレビ朝日の報道ステで活躍中。

テレビ朝日系の「報道ステーション」のメインキャスターを務める大越健介さん(62)が、報道現場の裏側や自身の仕事への思いをつづったコラムを一冊にまとめた。「ニュースのあとがき」(小学館)。NHKで「ニュースウオッチ9」のキャスターなどを務めてきたベテランが、活躍の場を民放に移し、2年半あまり。同じく夜10時台でキャスターだった久米宏さん、古舘伊知郎さんとは異なる大越流のニュースのさばき方とは。

——コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、安倍元首相銃撃事件、WBC侍ジャパンの優勝……。2021年10月にキャスターに就任してからの2年半をどのように振り返っていますか。

気がついたらもう2年半で、あっという間です。凡庸な1日が積み重なると長いと感じると思いますが、国内外で色んなことが劇的に変わりました。時代の変り目の節目にこの仕事に就いているのは運命的なものを感じています。

——NHKを退職し、テレビ朝日の報ステのキャスターになるきっかけはありましたか。

60歳が一つの節目だと思っていました。携わっていた「NHKスペシャル」や、渡辺恒雄さん(読売新聞グループ本社代表取締役主筆)にインタビューする番組の区切りもついで、自然な流れでした。特に大きな決断があったわけではありませんよ。

——「ニュースのあとがき」は、報ステのホームページで連載していたコラムを一冊にまとめたものです。コラムを書くことは「自己点検の一環」と書かれています。週末に1週間のニュースを振り返って、コラムを書いています。思いをめぐらすことが好きで大事な時間です。視聴者の皆さんと一緒に、2年半を振り返るきっかけになれば。また、普段の番組で感情を出し切っては、キャスターの振る舞いとして成立しません。その情の部分をコラムに書き、それをまとめたのが今回の本なのかな。

——本の中で、「テレビ報道では十分すぎるほどのベテランの域に達している。だが、経験を頼りにできない。ニュースは今を映し出すからだ」と書いています。

40年近く取材の仕事をして、1人で経験できることは、森羅万象の極めて限られたこと。つまり、小さな経験だけで語りたくなりますが、あまり意味がないと思っています。むしろ、その経験によって新しいことにどう反応するかが大事だと思う。

◆ VTR後の一言に逡巡 ◆

——「報ステ」のキャスターになった当初は、予定調和ではない、アドリブ感満載な番組を目指したい気持ちもあったそうですが、早々に変わったそうですね。

「報ステ」は、NHK時代から番組自体のクオリティが高いと思っていました。

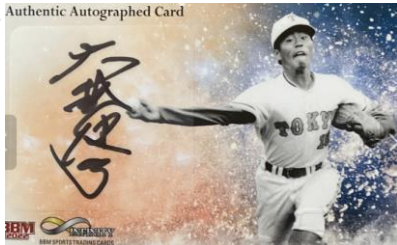
キャスターは、その日のニュースの取材や編集に当たったスタッフの努力を視聴者に届ける最後の役割を負います。ぎりぎりまで新しい要素を入れたVTRも、キャスターの一言で台無しになる可能性は常にあります。

一方で、「機械仕掛けの人形」でもありません。放送で流れるVTRは事前の打ち合わせで、概要はわかりますが、本番の時に気がつくことがあったら、アドリブでコメントする時もあります。だけど、それは自分の思い込みかもしれないし、客観性がないかもしれない。元となるコメントの土台を作りながらも、「やめておこうか」「言ってもいいんじゃないか」と常にぐるぐる考えています。

今は、無理に番組の質を壊す必要はないし、しっかりとつなげていきたいと思っています。外から来た自分がこの番組の中に入り、良い意味での化学反応が起きて、変わっていくことは僕の望むところだし、番組にとっても良いことだと思います。

——視聴者は、大越さんの問題意識を期待していると思います。

そう言っていただくとやりがいがあります。こういう言葉、表情で、一言付け加えることによって、VTRだけで伝えきれないもどかしさを多少なりとも救えるかもしれないし、意味を整理できていると思っています。それはコラムも同じです。Authentic Autographed Card



——ただ、元政治記者として、岸田政権について厳しく言った方がいいのでは。

マスコミは公器で、公平公正であることが大事なんじゃないのかな。NHKにしようが、朝日新聞にしようが、一緒に。岸田政権に対して批判的なことも言うけれども、そのうち頑張った部分は評価をする。だから、「政治だから批判だけすればいい」とか、「強いものに対しては盾突くべきだ」とか、ではないと思います。

是を是としてあまり褒めることは性格上あまりしませんが、批判だけして良しとする時代でもない気がしています。

——「ニュースステーション」の久米宏さんは、ニュースをわかりやすく、面白くしたことで高視聴率を獲得し、ニュース番組の概念を変えました。「報ステ」の古舘伊知郎さんも反権力を貫きました。大越さん流はありますか。

やっぱり、手堅いほうだと思っています。それはどのようにとっていただいても構わないですし、先ほどの話にも通じるのですが、安易な自分の感情や解釈で物事について言えないし、公正公平であり続けたいと思う。それは、もう手堅くなっていくんだろうな。だけど、ニュースで扱うものは、決して考え込む必要があるものばかりではありません。例えば、WBCで侍ジャパンが優勝した時は、視聴者を代表して喜びました。それはテレビの大事な要素だと思う。だから、手堅いけれど、面白くですかね。

——一歩引いた物の見方は、大事にされているんですね。

記者の経験は大きいですよ。つまり、全知全能じゃないから。

——政治記者経験者から、政治家とともに国を動かした話を聞いたことがあります。

それは勘違いですよ。政治家であろうが誰だろうが、1人の人間がドヤ顔で言えるようなことはない。それが結果的に何か大きな動きにつながることは確かにあるかもしれないけど、1人が経験してきたことは、か細いことだと思う。記者はこれを成し遂げたとする職種ではなく、そう言いたいなら、政治家になればいいと思います。

——民放に来て、視聴率の意識は変わりましたか。

一緒です。NHKの時も大事な指標だと思ってきました。

——「報ステ」の視聴率は、2019年度から5年連続同時間帯トップです。

現状を超えようとして、やっと現状維持ができるわけで、その倍のチャレンジをしなくては行けない。挑戦し続けた結果が、今だと思います。それはキャスター1人の個性で変えられるものではなく、チーム全体として意識の徹底ができていところがこの番組の強みだと思います。

◆ アナウンサーではなく、記者出身「小さな誇り」 ◆

——NHKがある渋谷と比べて、六本木への愛着はどうですか。

六本木をそんなに知っているわけではないですが、うまいハムカツを食わせる居酒屋があって、数週間ここでいることに違和感がなくなりました。

——今の太田さんにとって古巣のNHKはどんな存在ですか。

ともに磨き合っていく仲間ですかね。NHKのニュースサイトはよく見ます。ニュース原稿や特集は、信頼に足る情報源として、大きい。また、NHKがどこにスポットを当てて出している

“2024年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

手堅くニュースを届ける報ステ・大越健介キャスターの流儀
2024年5月11日 朝日新聞 引用

大越健介(ニュースキャスター)
＜青山88期＞元NHK→TVA報道キャスター

～ 前頁より続く ～

◆アナウンサーではなく、記者出身「小さな誇り」◆

かは離れた今、重要な尺度の一つです。だけど、NHKで手が届かないというところにこっちは手を届かしてやろうという思いは常にあります。

——「ニュースウオッチ9」のキャスターが今春かわり、フレッシュになりましたが、対抗心はありますか。
僕の方が、若いと思います(笑)。

——大越さんをはじめ、有働由美子さんや武田真一さんらNHK出身者が今も昔も民放で活躍しています。なぜだと思いますか。
それは民放の方に聞きたいです。
ただ一つ、NHKのアナウンサーの方で民放で活躍されている方は多いですが、記者だった人間が声をかけられた例はあまりないと思う。取材者であると同時に表現する力もあると認められた意味で、小さな誇りにしています。



ニュースのあとがき・大越健介
2024.4 発行 →

——今年は世界的な選挙イヤーです。どう報じますか。

選挙は「これが争点である」とか、「〇〇が問われる選挙だ」とか、キャッチフレーズをつけられますが、それは必ずしもそうじゃない。

(4月の衆院補選で)「政治と金」が問われている島根の選挙区に行ってきました。もちろん、それはテーマの一つではありますが、その地域で一番切実なのは、高齢化や過疎化であったり、我々の故郷を誰に託せばいいんだということだったりもする。

米大統領選挙でも、日本でいつか行われる総選挙でも、現場に出ることが大事です。頭の中で考えたテーマをいかに逸脱していくかが試される。ワンイシューにとどめず、どう多角的に報じていくのかが、我々の仕事だと思っています。(聞き手・宮田裕介)



◆東京青山総会・新人歓迎会で講演も◆ 2019年6月

令和元年度/東京青山同窓会『総会兼新人(127回)歓迎会』 アラスカ(プレスセンター店) 2019.6.21(金)18:30～

第二部『新人歓迎会』～講演会・大越健介氏

◆講演・講師紹介◆

◆大越 健介 氏【88回卒】◆
日本放送協会(NHK)報道局記者主幹

テーマ:『ニュースの現場から』
(野球～報道～世界の今など...)

★横顔紹介★
高校・大学と野球(捕手→投手)。
日米大学選抜、Mマガワイアと対戦。
東大国文科卒。NHK報道局政治部、
フジテレビ支局長、NW9・MC等の後、
現在サンデーモーニング2020のMC担当。
“スポーツマン”/“もの言うキャスター”

大越健介氏/88期



大谷翔平！ 54本塁打&59盗塁&130打点



世界遺産・佐渡金山



“2024年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

映画「オッペンハイマー」の価値
～森達也と原田真人両監督 解説

2024. 4. 8 映画 COM

【森 達也 プロフィール】

1956年、呉市生まれ。新潟高校83期卒、立教大学では、自主映画製作集団「パロディアス・ユニティ」サークル。就職せず演劇活動に打ち込む。29歳の時、林海象の監督



デビュー作『夢みるように眠りたい』に主演する筈だったが、森が入院したため代役として佐野史郎が出演し、佐野の演技力と作品のヒットの結果で役者を諦める。後も職を転々とし、不動産会社、商社、1986年テレビ番組制作会社へ転職。後にフリー人として制作。オウム真理教信者達の日常を追うドキュメンタリー映画『A』を公開。ベルリン国際映画祭に正式招待される。その後、「放送禁止歌」、「ゴーストライター問題」題材の映画「FAKE」、i-新聞記者ドキュメント等、タブーから目をそらさない姿勢で取り組んだドキュメンタリー作品を出している。

「オッペンハイマー」映画価値

第96回アカデミー賞で作品賞を含む7部門を受賞した映画「オッペンハイマー」の公開記念トークイベントが4月6日、都内で開催され、映画監督の森達也、原田真人が登壇し、作品の魅力について語った。

本作は、「ダークナイト」「TENET テネット」などを世に送り出してきたクリストファー・ノーラン監督が、原子爆弾の開発に成功したアメリカの物理学者であるロバート・オッペンハイマーの人生を描いた伝記物語。2006年ピュリッツァー賞を受賞した、カイ・バードとマーティン・J・シャーウィンによるノンフィクション『「原爆の父」と呼ばれた男の栄光と悲劇』を元にオッペンハイマーの栄光と挫折、苦悩や葛藤を描く。

映画を鑑賞したという原田監督は「この作品を観て『市民ケーン』を思い出したんです」と語り始めると、「1962年の『アラビアのロレンス』、1981年の『レッズ』、1987年の『ラストエンペラー』、そして2004年の『アビエイター』。これらの作品は全部歴史上に名を残した人の栄光と挫折を描いて、一大スペクタクルにした映画なのですが、『オッペンハイマー』はその系列に属しているなかでも最高峰の1本だと思っています」と絶賛する。

一方、「福田村事件」などを手掛けた森監督は「とても手応えのある作品」と評価すると、本作が広島や長崎に原爆が落とされた描写を映画の中に入れていないという一部の批判に対して「ずっと腑に落ちなかった。映画を観て改めて思ったのですが、しっかりと描かれている。

直接的に描けばいいものではなく、この映画はものすごく強烈な反戦映画になっていると思う」と断言する。

原田監督は「原爆の被害に関しては三部作にすべきなんです」と語ると「原爆を作った側のロスアラモス研究所を中心とした話、それから広島や長崎の被災地の惨状、そしてもう一つはポツダム会談のこと。日本人は誤解しがちなのですが、日本の降伏を巡る論議という分科会で行われていたことで、メインの会場では一度も論議されていないんです。メインの会場で論議されていたのは、ポーランドの分割や、スターリンがイタリアをよこせと言ったことに対するやり取りがあっただけ。そういったポツダムの惨状を描く必要がある」と持論を展開する。

そのなかで原田監督は「僕自身、広島 of 惨状というのは『日本のいちばん長い日』のときに、原爆投下したシーンはワンカットしかいれられなかった。そのことを広島市民に『原田さんは原爆のことを描く気はないんですか』と言われて、コロナ禍の最中、一生懸命資料を読み込んで、広島 of 原爆投下を中心にした1カ月の話の脚本を書いたんです」と事実を明かす。

だからこそ原田監督は「オッペンハイマー」を観る前に「中途半端に広島に踏み込んでくれないか」と思ったという。しかし映画を観て「広島に対する彼の罪の意識はしっかりと描かれている」と評価すると「『我々は世界の破壊者になった』というアインシュタインと、彼を引き継いだオッペンハイマーの二人のチェンジアクションを完璧に描いている。そこに僕は胸を打たれました」と語っていた。

原田監督が構想する三部作のひとつ。自身がすでに脚本まで書いているというが「もちろんやりたいですが、日本のお金だけではできない。原爆の被害者は日本人だけではなく、米軍捕虜もいれば、朝鮮人もいた。東南アジアの留学生もいたし、ペドロ・アルペさんという素晴らしいスペイン人の神父さんもありました。こうした人々をすべてタペストリーとして描く広島 of 被爆映画。30億、40億というお金がかかる。でも『オッペンハイマー』が道を開いてくれたので、いつかこの映画を作るぞという気持ちになっています」と胸の内を明かしていた。

映画を観て改めて「ノーランは天才」と語った森監督。しかし一方で「天才ではあるけれど、相当乱暴です」と笑うと『「テネット」』は最後まで観られない。何がなんだか分からないから。ノーランというのはそういうところがありますよね。映画に説明過多は必要ないと言いましたが、もう少し説明したら……というところがある。客を置いていってしまう。この映画にもそういうところがありますよね。天才ゆえなのかな。羨ましいですね、周りを気にせずに行けるのが」と発言し会場を笑わせていた。



最後に森監督は「以前から核抑止なんてありえないと思っていたけれど、プーチンが核兵器の使用をほのめかしたとき、核抑止理論は崩壊したと思う。それでも日本はいまだに核兵器禁止条約に批准すらできない。核保有国は矛盾するので分かりますが、日本は唯一の被爆国で核を保有していない。この映画で広島や長崎の描写が足りないと思う意見がありますが、何で核兵器を禁止しようという条約に日本が調印できないのかという疑問に対して声をあげるべきだと思います」とメッセージを送っていた。

広島長崎 of 原爆はたくさん描かれてますよ。長崎の鐘、黒い雨、さくら隊散るなどなど。でも被爆者視点で言えばあんなものじゃない、納得できるものなんかないのだと思う。これからは落とした側の論理も掘り起こし、なぜ原爆は落とされたか、落とさねばならなかったか、どうやって落としたのか、この観点も融合させて描いてほしいと思います。ドラマやドキュメントにしる原爆にかかわるテーマ of 映画化の継続は大事なことです。

< コメント >

広島や長崎に原爆が落とされた描写を映画の中に入れていないという一部の批判;この批判は「批判のための批判」に過ぎず、放置すればいいと思う。日本だって、原爆被害を描いた作品はほとんどない。欧米の「ホロコースト関係」作品と比較すれば分かる。

日本(主に右派) of 原爆への「姿勢」は矛盾の塊である。「はだしのゲン」への批判とか、本記事でもある核兵器禁止条約にサインしていないこととか、そもそも核武装を目指していることとか。上記と「被害を描くこと」は矛盾する。ひらたく言えば「原爆被害について描いてほしくない」って人がぼちぼちいる。そーゆー連中が批判してるだけ。



“2024年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

脱力の日常、うなれば新しい
笑い～浪曲師『玉川太福』玉川 太福 (古俣 太)
<青山106期> 2024.7.11 朝日新聞

《玉川太福 プロフィール》

1979年8月新潟市東区生まれ。幼少よりお笑い好き、コント作家志望。千葉大卒。放送作家事務所勤務。自分で舞台に立てば自分の台本ですぐやれる。現代口語演劇、落語と移り、浪曲師入門。自分の台本で、浅草・木馬亭で初舞台。関東節の若手浪曲家に。

■浪曲師・玉川太福さん

悲しい調子の三味線と相まって、お涙ちょうだいを語る。浪曲は泣けるもの、とは限らない。玉川太福(だいふく)さんは、奇抜な新作で笑いの渦に引きずり込む。斜陽だった演芸で花咲かせた、その発想について。

面白い。でも……。

浪曲を聴きながら考える。ここは東京・浅草の木馬亭。18年ほど前、人生の岐路にいた。

大学時代からコントの台本を書いている。卒業後、放送作家事務所働き始めるも「やりたいことじゃない」と悟り、高校の同期とコントユニットを組んでお笑いライブに出るようになる。

テレビの笑いが好きだったが、東京の小劇場に通い、日常会話のような台詞(せりふ)から笑いを醸す現代口語演劇に目覚める。「自意識過剰でうまく物事を進められない人々を、やさしく笑う」のが性に合うと気づく。

俳優の村松利史と意気投合、エッジの利いた演劇を見ては感想を語り合い、台本を見せては助言を受ける。落語を勧められ、まず柳家小三治の追っかけに。次は「浪曲って知ってるか」。

めちゃくちゃ面白いんだよ玉川福太郎が」。木馬亭の浪曲定席に通い詰め、客席で黙考する。

*

壁にぶつかっていた。演技ができないと思い知った。やりたいのはお笑いか演劇か。村松に冗談めかして言われた。「いっそ、浪曲師でもなっちゃえば」

浪曲にひかれる理由があった。「赤穂義士伝とか清水次郎長伝とか、そんなに心ときめかない物語を、面白おかしく聞かせてくれる芸者すごいな」。妄想が膨らんだ。「じゃ、この芸に自分が面白いと思ってる話をぶついたら、どんな化学反応が起こるんだろう?」

福太郎に入門し、3年目あたりから新作を書き始めた。アパートに帰ったら「洗濯物が飛ばされてる」。熱すぎて入れない銭湯の温度表示が42度とは「どう考えても壊れてる」。そんな日常をうなる小品から。

続く「自転車水滸伝～ペダルとサドル～」で売り出す。大家から譲られた自転車にまつわる実体験を、物語のある一席に仕立てた。古典とは異なる受け方を肌で感じとった。

さらなるヒット作が「地べたの二人」だ。電気工事作業員の先輩後輩が会話する。もともとコント台本で、村松に「あれこそ浪曲だぞ」と促された。そのころは型を意識する「浪曲脳」になっていて、受け付けない。

玉川太福さんのこれまで

1979年生まれ、新潟市出身。高校、大学はラグビー部

2002年 千葉大学卒業。
アルバイトをしながらコント台本を書き、自ら演じる

07年 玉川福太郎に入門

19年 落語芸術協会の寄席に出演



主な作品 (※はオリジナル)

・11年「自転車水滸伝～ペダルとサドル～」



『「お茶を飲む」っていうフレーズを3回うなったら」と助言された。敵討ちや俠客(きょうかく)物の対極をなす脱力のやりとりを、客が面白がった。いまや10本以上の人気シリーズに。演芸関係者の目にとまり、若手落語家が新作で競う「渋谷らくご創作大賞」の第1回大賞を、浪曲師なのに受賞した。

*

講談や芝居などの名作のいいところ取りという、浪曲の伝統を踏襲する。一門の先輩、玉川桃太郎がやった映画「男はつらいよ」第1作を引き継いだ。全48作の浪曲化をめざし、今月15日に28作目をネタおろしする。

同郷の三遊亭白鳥の新作落語「任侠流れの豚次伝」は、仁義に生きる動物たちの物語。昨年初めて全10話を通し口演した。

喜劇映画や落語を浪曲にすると「うなるから失われることも、生まれる笑いや感動もある」。原作と向き合い、浪曲ならではの面白さを突き詰める。

芸歴を重ねると、自分で作った枠に収まろうとするのがわかる。それでも「枠を常に破って、新しいもの、なかった景色を見せたい」。浪曲の扉を開けて広げる使命を自覚する。「ちょうど時間」と降りますのは、当分先でござい。(井上秀樹)

- ・12年「地べたの二人」シリーズ
- ・16年「任侠流れの豚次伝」シリーズ ※落語
- ・16年「男はつらいよ」シリーズ ※映画



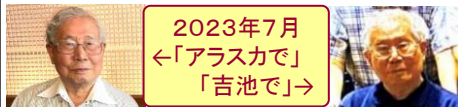
写真は玉川太福さん提供



「追想：終戦から日本に辿りつくまで（満州引き揚げ）」連載・最終回(全3回) ～ 星 満 (64期)

二つの祖国～満州から新潟へ

“星 満”<青山64期> 2023.7 寄稿



2023年7月
←「アラスカで」
「吉池で」→



《満州国とハルビン》解説

「極東のパリ」。中国東北部の街ハルビンは、そう呼ばれていた。日本が謀略で打ち立てた満州国の時代、目抜き通りに洋館が並ぶ街。ハルビンは、もとは革命前の帝政ロシアがいち早く進出し、中東(東清)鉄道の拠点として開発した街だった。

《本文》 第2回から続き;

11) 匪賊の襲来、奉天(現瀋陽)へ(続)

気が付くと匪賊はもう居なかった。結局、筋書き通りの金を払わされたらしい。「ガタン」と汽車は動き出した。そしてそのまま奉天へ。僕も、又いつか眠ってしまった。(注.私は独立後、台湾のバイクメカで10年間技術指導を行ったが、当時はそんなことは夢にも思わなかった)

目が覚めると奉天に着いている(注.距離的にみて一晩で着く筈なので、多分もう一日掛かったと思う? 良く覚えていない)。非常に冷たい。空はまだ暁の光を吸い込んでおらず、少し青みが掛かった上に星をあつち一つこつち一つと散らばしている。その時遊びにでも来ていたのか、一人の中国人少年が珍しそうに見ていた僕や、まだ寝ている人達に砂をぶっ掛けた。癪に障ったので釘を打つため持って来た石をぶっつけてやった。

午前11時頃下車するようにと命令が出たので僕は当てが外れた思いがした。全く運が悪い。奉天市内では(注.現在の瀋陽は、中国東北部最大の都市で人口も1200万人)僕が見た所は少しも被害を受けていない。ハルビンに似た街で日本人がまだ沢山残っていると見え、日本人小学校まであった。

榆の並木に沿って歩くと、のんびりそうに、中国人が木の下で寝ていた。のどかな風景である。(戦争被害が無かったから? ついでに言うが奉天で初めて高粱飯ではあるが、食事の配給があった)1時間ばかり歩くと昔の北大堂正門に着いた。ここは満州事変発端の地だそうだが、門内に大きな工場が建っていて、現在は使って居らず、引揚者の収容所に充てられて居た。もう先客が居て子供達がトロッコに乗って遊んでおり、その真似をしてあちこちの線路に散らばっていたトロッコを集めて競争したりして遊んだ。

大変面白い。トロッコに乗っても叱る者もないし、他に遊ぶことがないので自然こう云う遊びをするのだろう。然し工場なので所々にクールタールの穴があり、落ちると死亡にも繋がり、非常に危険であった。

12.) 早く錦州へ行きたい

近頃僕達の合言葉のようになっていたのは「早く錦州に行きたいですね。」と云う言葉。このように憧れる錦州であるが、勿論、僕達の目的は日本である。日本に帰りたいから錦州に憧れるのである。錦州は衛生や、その他色々日本に入る準備をするに過ぎない。そこに5日から20日位居て汽車で胡芦島へ、そこから船で日本へ帰るのである。だから日本は錦州から、直ぐ近くにあるのと同じである。その錦州へ明日出発すると云う通達が来た。

僕は浮き浮きする心持を抑えて、支度に掛かった。今日の15時に汽車は出る。それまで、僕は兄と同級生の中村清さんと、無蓋車の壁に物を掛けるために使う釘を拾って歩いた。曲がっている釘も石で伸ばした。そうしている間に15時近くなったので釘拾いを止め、無蓋車に乗った。「ガッタン」汽車は大きく揺れて動き出した。途中二回停まったきりでひた走り続けた。広い高粱畑を横切り鉄橋を渡って…。やがて長い日も暮れて来て、太陽が高粱畑の舞台を今真に落ちようとした時思い出したのは小学一年の時習った『満州』(教科書)の中の一節であった。

西は夕焼け赤い空、東は丸いお月様
こうりゃん荊って 広いなあ…
どっちを見ても 広いなあ…。

全く高粱畑は広い。四方八方見渡す限り高粱畑である。旅は翌日も続く。高粱を刈っていた農夫が時々珍しそうに見送っていた。その日も暮れて辺りは暗闇となったが僕は寝なかった。今日遅く錦州に着く筈であるから。

13) 錦州にて

22時頃汽車はやっと停まった。錦州に来たのである。辺りは真っ暗で、所々に同僚の提灯が赤く点々と見える。団長は皆を引き連れて、ある公園へと向かった。「皆さん、大変お気の毒ですが収容所が開くまで、数日間、ここで過ごすことに成りました。」僕は直ぐに荷物を下ろして野宿の仕度を始めた。先ず土の上に紙を敷いてその上で毛布に包まり、ごろりと横になった。だが中々眠れない。空を見ると“星”が僕に何か語ろうとでもしているよう、キラキラと瞬いている。一体“星”は何を語ろうとしているのだろう。旅を慰めるのか、それともこれからの時代の遷り変わりを伝えようとするのか。“星”が何を語ろうとしたか僕には解らない。けれどもその美しく輝いていた“星空”は何時までも忘れられない。今でも綺麗な“星”の空を見るとこの時のことを思い出す。

朝目を覚ますと、もう7時頃だ。昨日は落ち着いて寝なかったの、遂夜過ぎてしまった。ここは木が沢山生え繁っていて大変気持ちが良い。晩、僕達と同じ日にハルピンを発った人が訪ねて来た。此の人達は新京も奉天も素通りして、錦州に1週間だけ居て、愈々明日胡芦島の港から日本に向かうそうである。羨ましいことだ。僕達は公園に3日間野宿を

して、収容所に移ることに成った。街へ一歩出て驚いたことに、見渡す限り焼け野原だ。8キロも散々歩かされくたくたになった時、一つの荒れ果てた建物に着いた。煉瓦建で6階まである。これが僕達の収容所だ。団長は早速部屋の割当てをした。僕は決められた部屋に真っ先に入った。広さは10畳位、人数は15人だからぎしぎしだ。それに病人が三人もいたので、彼等を楽にする為奥の一番良い所に場所を取って、毛布を敷きそこに寝かされた。僕達10何人は、入口の吹きさらしで石がごつごつしている所に寝ることに成った。翌日目が覚めると身体の節々が痛い。暫くすると癒ったが、毎日こうだとすると参ってしまいそうだ。僕達の班では何時の間にか、毎朝6時になると体操をするようになった。向うの山々から段々日光に染められて来て、ここにも光が届くようになると、この運動は終わりになる。

錦州到着の日から、僕達は日本に病気を持って行っていけないとのことで毎日、今日はコレ。明日はチブスと云うように、注射を打たれていた。そして徹底的に病気をなくす為、僕達の部屋にいた厄介者(口が悪いが)を入院させた。お陰で一番良い所で窮屈なことは窮屈だが楽に寝られるようになった。(今考えると、よく病人の跡へ寝られたと感心する。)

ここの皆の一番の楽しみは、時々する演芸会であった。役者は希望者が隠し芸をしたり、又大勢で芝居を演じたりもする。中には本職の役者もいて、道具は手作り粗末であったが、中々見ごたえのある、面白くて演技も真似手がない位のもあった(帰国後、芸能人になった人もいた)。皆はこれを時間が経つのも忘れて見たものである。(こう云う演芸会は後にも、空腹を抑えるため、船の中でもやった。)

僕達のこの頃の遊びは、横に鉄条網を張り巡らした、政府軍の訓練所があったので、その影響を受けて山手の方へ行って、城壁を作って鉄砲の撃ち合いの真似をしたり、偶然拾った鉄砲玉(空)で、さも自分が実戦に参加したようなホラ話をでっち上げ喜んだりしていた。更に下手に水道タンクが放置されて居たので、これも早速僕達の戦車に早変りした。中は相当広いので5,6人で入り、戦争の時みたいな口振りで話をしていると、戦争に行きたいと思うこともあった(注.まだ戦争気分が抜け切れてないので)。

14) 胡蘆島へ

月日の経つのは早いもので僕達が錦州へ来て早や15日経った。それは丁度朝飯を食べていた時だった。「明日20時に胡芦島へ出発します。」嬉しい伝令が巡って来た。さあ大騒ぎである。船に乗ると野菜が不足するので、錦州名産のリンゴや梨を、最後に残しておいた有り金をはたいて、皆が買い込んだ。それからまだ少し残っていた米を出し合って、ご飯を炊きお握りを作り、各家に頭割りに分配した握りたてを一つずつ食べたが、米の飯は新京以来始めてなので、今迄感じたことがない位美味しかった。その晩は大抵の者は徹夜して夜の明けのを待った。もう皆広場に集まって、何時に出発しても良いようだ。

「追想：終戦から日本に辿りつくまで（満州引き揚げ）」連載・最終回(全3回) ～ 星 満 (64期)

二つの祖国～満州から新潟へ

“星 満”<青山68期> 2023.7 寄稿



ハルビン：ロシア様式教会と百貨店

<前頁から続く>

やがて20時近くなったので、団長は列を動かした。空は曇りがちな天気で“星”が無く、ただ白い月が慌て者のようにあちへ行ったり、こちへ行ったりしてうろつき巡っている(そう見えた)。間もなく一行は駅に着いた。

夜目にもはっきりと無蓋車が見える。汽車に乗ると気が緩んで眠くなった。はっと気がつくといどはすっかり明るくなっている。汽車はどこを走っているかと思つて見ると地名は解らないが、右は広々とした平野左は遙か向に山が聳えている。昨日の天気は何処へやら、非常に良い天気、朝風に吹かれながら景色を見ていると気持ちが良い。同じような所をずんずん通って行くと一つの駅に着いた。僕は一寸高い所にいる。

下を見下ろすと石炭の山が沢山あった。それをクレーンがザラザラ崩して貨車に積んでいる。そこを通り越すと少しずつ両側が高くなって来て、土手になり、そして汽車より高くなって、遂に目前に聳える山となつて、見難いげな山は僕達を見下ろした。然し山の高さも薄らいで、全く元の土手、そして平野になった時、汽車は駅もないのにガタンと停まった。胡芦島である。思ったよりずっと淋しい所だ。1キロばかり歩いて港へ行く。岸壁に横たわっている船。それは僕達の乗って行く遠州丸である。ここで初めて、アメリカ兵を見た。

15) 引揚げ船 遠州丸

先ずDDTを、頭から身体中ぶっかけられ、荷物を検査されて船に乗り込んだ。この遠州丸は三千トンの貨物船である。出発の時間となつて船は騒がしい音を立てて動き出した。甲板に立って去り行く満州を見ていると何となく悲しい気持ちがする。途中で亡くなった人達、さようなら、満州よさようなら。

それから二日経った。この船の遅いことは、全くお話にならない。故障した船まで動員して、引揚げ船として配船したようである。ボイラーが一台壊れているとのことだが、そのためばかりでは無さそう。しかし海の珍しい風景を見られることは良いことだ。船の脇をクラゲがパラシュートのようにゆらゆらと何匹も通って行く。名も知らない魚も、果ては大きな鯨のような物まで、時々顔を見せた。朝鮮半島の横を通つた時、すばしこそうな帆掛け舟が、魚群を追かけているのも見かけた。海雀が船の手摺りに止まって、手を出しても中々逃げようとはしない。手が届きそうな所に来ると、一寸先に飛んで又前と同じことを繰り返す。

或日船中で大事件が起こった。甲板で遊んでいた幼児が海に落ちてしまったのだ。悲痛な声を出して泣き喚ぐ母親。船も停止せず、その相手になって騒ぐ弥次馬もおらず、勿論海に飛び込んで子供を助ける者もない。皆な浮かない顔して見ていたが、そのうちこの事も皆の頭から去ってしまった(注.人の死に對し、皆、鈍感に成っていた)。しかし食事は最悪だった。

船で配給されるのは、粟飯(多分米国援助の家畜用飼料?どんな空腹でも胃が受け付けない)とひじきと称したが実はほんだわらと名も判らない貝とを海水で煮た物である。しかもそれも満足に与えられない。僕は満州で食べた高粱飯を無性に懐かしく思うのであった(船員は高粱飯で、僕たちはそれを涎を流して見ていた)。空腹で階段も上がれなく成り、更に数日後、歩行も困難に成って、船底で寝転ぶしか無くなった。偶に甲板に出るにも、精一杯の力を出し、一階昇ると物凄く疲労を感じるのだった。後日、佐世保港で一週間船内に隔離(検診のため)されたが、その時、従来の粟飯に若干の麦が加えられ、僅かなイワシが入った雑炊が供されたが、驚くことに、その雑炊一杯で歩けるようになったのである。その雑炊の旨かったこと、今でも忘れられない。飢えるということが、如何いことか、身をもつて知った貴重な体験であった。

16) 日本が見えた!

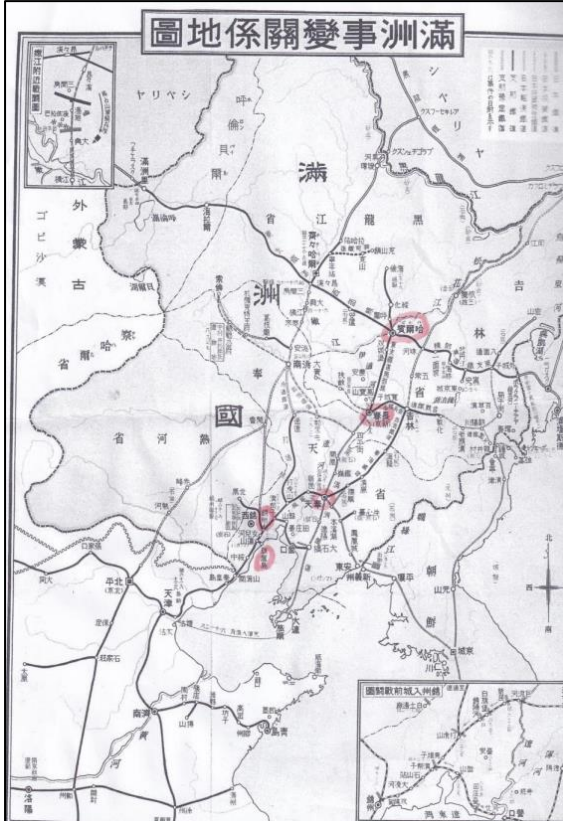
船長の話によると、今日中に日本が見える筈である。タベから荒れている海も何のその皆甲板に出て、今か今かと日本が見えるのを待っていた。しかし、矢張り海はそれを許さなかった。荒れていたそれは益々激しくなり、船を上下左右に揺すぶって甲板から人を追っ払った。そして、胃の中に何も無いのに、僕は不快な船酔いと疲労で何時の間にか寝てしまった。

翌日、目を覚まして甲板に出ると天気は上々だ。嫌やそれよりずっと素晴らしいことは目の前に、緑の日本が見えるのだ。船はもう停まっているようにしか感じられない。だが僕は1時間後堂々と佐世保に入港して行ったのである。その時誰の目にも嬉し涙が溢れ出していた。

ああ美しい緑の祖国日本。幼い時から憧れの日本。その日本が今僕の目の前にあるのだ。涙が頬を伝っていた。

17) あとがき

結局、9月初めにハルピンを出発して、佐世保に入港したのは11月末に成ってからで、更に船中及び佐世保収容所での隔離、伝染病などの検査に10日以上かけ、3か月以上の過酷な道中が終わったのである。我が家は、その後2昼夜かけ新潟市へ。専用の引揚げ列車で、駅員の乗者禁止の連呼にも関わら



ず、大勢の人々が窓からでも、強引に乗り込んで来るには驚いた。日本国内でも引き揚げ者並?でも本当に平和で良かった。どんなに混雑しても、命は無事じゃないかと思った。

この時の引揚げで一緒に帰って来たご家族に、後に歌手としてデビューした加藤登紀子さん(東大卒)の御一家があった。加藤家は佐世保から京都へ。後日東京で、ロシア料理店を始められた。実は、加藤登紀子さんが書かれた文章で、我が家の体験した引揚げルートと全く同じだったことが判り、後日、私の中学時代に書いた本原文を差し上げ、丁寧な返事を頂いた。

登紀子さんは昭和18年ハルピン生まれだが、当時は幼かったため、母上がその引揚げ体験を彼女に伝えられて書いたそうである。加藤家のハルピンでの住居は、我が家と同じ住所の外国3道街で、実はご近所だったわけである(当時は知らなかった)。

後日、加藤家の経営する、新宿のロシア料理店スガリー(ハルピンを流れる大河名)で、ハルピンを偲ぶ会が開かれ、登紀子さんと母上、兄上(私と同学年、当時住友金属専務、一橋大出身)と、ハルピンのことを思いっきり話したことがある。登紀子さんの生の歌声を聴かせて頂き乍ら。登紀子さんはその後、たびたび中国から招聘を受け、ハルピンでもリサイタルを開いたそう。また遺言で父上の灰をスガリーに流したそうである。

以上

加藤登紀子

< 最終回 >
お読みいただき
誠にありがとうございました。



“2024年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

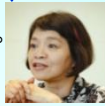
編集:工藤義夫(事務局)

『韓国と日本は似ていて違う』
～ 背景に朝鮮戦争の記憶斎藤 真理子(韓国文学翻訳家)
<新潟市出身> 2024年9月7日 朝日新聞

《斎藤真理子 プロフィール》

1960年新潟市生まれ、韓国文学の翻訳家、ライター。(新潟高校ではないが)

父は新潟大学名誉教授物理学者。

姉は文芸評論家・斎藤美奈子 →
(青山83期) 4歳上

明治大学文学部考古学科卒業[1]。1980年から大学のサークルで韓国語を学び始め、1991年からソウル延世大学語学堂に留学。2015年、パク・ミンギョ『カステラ』で第1回日本翻訳大賞受賞[2]。2020年に韓国文学翻訳院の第18回韓国文学翻訳賞文化体育観光部長官賞を受賞。訳書多数。

■ 韓流が日本に定着して20年。

近年は韓国文学の人気の高まり、昨年翻訳・出版された点数は過去最高になった。韓国文学ブームの立役者と言われる。

2015年、韓国人翻訳者と共訳したパク・ミンギョの「カステラ」(クレイン)で第1回日本翻訳大賞を受賞。初めて仕事として小説を翻訳したが、その滑らかで生き生きとした訳文は、日本の韓国文学を見る目を変えた。

18年、チョ・ナムジュのフェミニズム小説「82年生まれ、キム・ジヨン」(筑摩書房)を出版社に提案して翻訳。大きな共感を呼び、発行部数は29万部に。日本で韓国文学が「当たり前に」読まれる光景を生んだ。

韓国語と出会うのは大学2年の夏。女性問題を研究するサークルで活動をするが、隣の部室が韓国語を勉強するサークルだった。その年の春に起きた光州事件に衝撃を受けた。韓国への関心を高め、韓国語を学び始める。

卒業後も様々な職業を体験しつつ、韓国語を学び続け、91年から1年半、韓国に語学留学。滞在中に韓国語で書いた詩集はのちに韓国で出版された。帰国後は編集者として働くが、子育てや食べていくための仕事に追われ、本を読む余裕がない時期が長く続いた。一方、実用書の編集に携わるなかで、読者の役に立つ本をしっかりと作ることが出版の基幹と思うようになる。

翻訳とともに、韓国文学の魅力と特性を語り続ける。「柔らかな作品であれ、とんがった作品であれ、韓国の作家たちは親や祖父の世代が体験した過酷な歴史に真剣に向き合い、物語として再構築しながら歴史を継承している」。日本の読者にそれが伝わるよう

「訳者のあとがき」や訳注では韓国の歴史的社会的背景を丁寧に解説する。初の日本語単著「韓国文学の中心にあるもの」(イースト・プレス)では、韓国文学を現代史と絡めて読み解き、その要にあるものは朝鮮戦争だとした。文学を案内しながら、韓国現代史をこれほどわかりやすく掘り下げて解説した本はないと評判だ。日本人々にとって韓国文学は役に立つと考える。優れた書き手は編集者としての視点も失わない。

韓国文学を追うと、いかに無念な死の堆積(たいせき)の上で人々が懸命に生きてきたかがわかります。その歴史に日本が大きく関わっているのに、日本では朝鮮戦争が知られていない。「韓国文学の中心にあるもの」を書いた理由はそこにあります。

——4・3事件がモチーフのハン・ガンの「別れを告げない」(白水社)では済州島の言葉を沖縄の言葉に訳しました。

済州島の言葉をどう訳すかについては本当に悩みました。ハン・ガンさんに物語の舞台と言える地域を聞き、30何年ぶりに済州島を訪ね、無差別虐殺が行われた集落の美しい景色を見たとき、沖縄を思い出しました。韓国留学から帰国した後、4年間沖縄で暮らしたんです。那覇の首里城近くの眺めのいい場所でしたが、そこは沖縄戦の激戦地だった。沖縄でどこへ行っても戦争の傷痕を感じたことも韓国と共通していた。小説の中にも沖縄戦を示唆する一節があり、言葉の意味と言語そのものの存在感を生かすには沖縄の言葉しかないと思いました。

■ 本をひたすら読む

——翻訳をするうえで気をつけていることは、訳文を「美しい日本語」と言われると、失敗だったと反省します。韓国の作家は美しく書くとはしていないと思うので、その印象が付いてしまうのはよくないのではと思っています。

——この10年、すごい仕事量です。

よくそう言われますが、自分ではそんなにしているとは思っていないんですよ。編集者の仕事をしていたときのほうが大変だったから。いろんな分野を編集し取材もして。あの頃に比べると今は余生みたいな感じ。仕事で翻訳を始めたのは遅いし、いつまでも元気とは限らないのでできる時に集中してやっておきたいのです。

——読書エッセーの執筆や本を読む活動もしていますね。

「沈黙読会」という読書会を開いています。携帯電話とパソコンを閉じ、自分の好きな本をひたすら読むという会です。昔はこういう読書をしていたねと思い出し、一人で考える力を取り戻したいと思っています。

■ プロフィール

★80年から韓国語を学ぶ。82年初めて訪韓。
★大卒後フリーランスで様々な仕事を体験。84年初めて韓国語の詩を翻訳。
★91～92年、韓国延世大語学留学。帰国後の93年、韓国語詩集が韓国で出版。
★97年在日系新聞社や出版社で編集。

6.29-30 陸上日本選手権力走
二刀流～広田有紀の800M走★広田有紀★～ 医師とランナー～
<青山122期> 2024.7.2 THE ANSWER

《プロフィール》1995年5月新潟市生。白新中、新潟高、秋田大医学部卒。高校で800m優勝。陸上と医師の二刀流。2024年6月の日本陸上選手権決勝で8位。全力を出し切った。

◆2024. 6. 30 新潟デンカビッグスワン。陸上日本選手権女子800m決勝で8位。予選スタート前、覚悟の決まった表情を見せる広田有紀選手→。予選でも執念の走り。



今もなお文武両道を貫き続け、笑顔を送ったランナーがいた。6月30日まで行われた陸上日本選手権(新潟・デンカビッグスワンスタジアム)。女子800メートルで29歳の広田有紀(サトウ食品新潟アルビレックスRC)が8位に入った。研修医として勤務する傍ら競技を継続。怪我で諦めそうになっても「1ミリでも進める努力」を続けた。文武両道で培った力で結果を残した。「研修医をやりたいが陸上。世間には『片手間では日本トップレベルで戦うには到底無理』と思われながらやっていた。でも、やっぱり自分でやりたいと思ったし、『2つあるからこそ回せるよ』と結果で見せたいと思っていた」。研修医で2年間の実務経験も必要だったが、延期を決めた。東京五輪を目指すためだ。20年3月大学卒業後、地元・新潟で陸上に専念。21年日本選手権は2分4秒18で自己ベストを更新、2位に入ってしまった。惜しくも五輪には届かずもやもやとしたことは曲げなかった。昨年4月から新潟大学病院で研修医生活。再び陸上と医学を両立させる1年になった。勤務後練習、夜勤前に走る。だが、左足を疲労骨折。リハビリに励み、「1日24時間じゃ足りない」と。栄養バランスを考えた弁当で自炊。帰宅後に寝落ちするほどの疲れがあっても、「ひろた先生」と呼んでくれる患者の声を原動力にした。

◆◆◆ 次世代への助言 ◆◆◆

壁を乗り越えたと、伝えられることがある。道に迷う次世代の背中を押した。「二兎を追う者は一兎をも得ずと言いますが、二兎を追った分だけ何か成果は必ず表れるはず。二兎を追うことで諦めそうになる瞬間ってたくさん訪れる。だけど、1ミリでも進めていけば、私みたいに2分11秒から2分4秒までの飛躍も夢ではない。『そういう人たちもいる』とわかった上で二兎を追ってほしい」



一筆啓上

◆2024年度・上期分

◆総会前～R6年6月◆

52回・廣川 勲／郵送先不明

53回・中島常雄／新中＝シンチュー出身であることを誇りに思っていた夫は、2024年3月5日、95歳7ヶ月で静かに永い眠りにつきました。立派な同窓会組織を嬉しく自慢に思っていたことと思います。大学からは東京へ出たものの、軍事教練や農地解放と様々な変遷を経て思うところ多々あったこと存じます。新潟中学ではグライダー部に属し、新潟の浜を裸足で駆け巡ったようで我々家族を案内してくれました。大学では本好きが高じて図書館長など勤めていた人です。長い人生をありがとうございました。奥様より。

56回・網干道雄／郵送先不明

61回・伊藤英子／郵送先不明

61回・時岡 泰／家族から致連絡。2024.1.7 逝去、91歳。今後、会報送付は不要です。

61回・長沼雄峰／年々上昇しついに前回最上位に登り詰めた(会報：一筆啓上の欄)。氣づいた89歳、米寿を超えていた。会報を読むと、良い学校に入り、卒業させてもらったことに気づく。感謝しています。秋田より

61回・村岡公夫／郵送先不明

62回・帆刈宏典／会費2千円振込。計報：2023.11.11 致と記載あり。

62回・渡辺真実／郵送先不明

63期・白倉 至／家族から、白倉至は今年2024年2月3日に亡くなりました。今後のメール等での連絡、郵便物等は結構ですのでよろしくお願いいたします。

64期・樹湯晴夫／娘さんから電話、父は2023.8.24 歿

65回・中谷一泰／総会紹介資料スライド準備、ミーティング時間をお知らせください。

67回・三堀 浩／郵送先不明

68回・上村樟子／戦前満洲にいた一般日本人155万人、死者18万人。昭和28年3月23日 第一次引揚者4937名、同年10月12までに7回で合計26,127名。引揚船・興安丸、高砂丸です。私一家6人は同年8月高砂丸でした。昭和28年8月、立川羽衣町の引揚者寮へ引揚者住宅(町田)一総和29年4月に新潟へ。

68回・渡邊泰彦／郵送先不明

70回・猪口 孝／会報への記事掲載ありがとうございます。青山70期も心持少なくなっているようです。70期・佐藤善允氏や70期・加藤邦氏などに頼んでみたら如何でしょうか？別件ですが、私が卒業した寄居中学校は1学年10クラスあったはずですが、現在は2クラスに減少。2024年に75周年記念をやるそうです。里帰りでできれば参加したいです。どなたに連絡すればいいのか？と思案しています。

71回・堀 清忠／今年は傘寿を迎えました。先般、小浜へ京都までの通称、「鯖街道」を旅しました。日本の文化と名刺を改めて感じ入りました。そして歴史の重み！次は…

74回・齋藤一幸／5年程前に参加して以来、会にはなかなか参加できず申し訳ありません。心房細動のアブレーション手術の後、再発傾向で体調が整わず失礼してきました。昨年10月に7年半振りに2回目の手術を受けました。医師の話では「最初の手術の取り残しが多く手間がかかった」とのこと、その後、半年ですが再発の兆候が出ていません。未だ様子を見ているところですが、飲めなくなったコーヒーやお茶(カフェイン)を恐る恐る試し始めています。体力が戻った、また参加させて頂こうと思い巡らせています。参加はよくよく選ぶべきかと皆様にお伝え願います。

* R6.4.1～R6.9.30 (上期分)

葉書／E-mail／会費振込用紙等に記載のメッセージ 等 *

74回・坂井 靖／総会には所用があって参加できません。

75回・岡順子／工藤様ご無沙汰しております。今年も総会の季節がやってきました。昨年は久しぶりのリアルで懐かしい顔、顔、顔で楽しませていただきました。今回は残念ながら、欠席とさせていただきます。調整を図ってみたいがうまく行きません。会報も毎回、内容豊富になり、編集をされている工藤先輩のご苦労もみながらスキルの高さに感心しております。今年はDeNAが例年に比べ少なさが頑張っているようですね。何となくさやかに応援しています。南場さんについていえば、いつも気になっているのは、大越さんとの対談の記事だったか、工藤さんのインタビュー記事だったか忘れてしまいました。日本のIT化が遅れた原因の一つが、自分たちのような先輩を切ったIT会社のやり方に問題があったという趣旨についてです。それがどういう意味なのか、今でも知りたいと思っています。現在のように押しも押されぬ企業トップになりながら、そのような気持ちを持っているとしたら、素晴らしいことです。後輩たちを迎えるのインタビュー記事でもそんな人柄を感じさせてもらいました。珠玉の後輩ですね。長くなりました。気候不順の折、健康にご留意ください。青山同窓会総会の盛会をお祈りしております。

75回・白鳥十三／総会参加です。よろしくお願い致します。

76回・田中邦直／6月29日の総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

77回・佐藤 茂／6月29日の総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

79回・川上康夫／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

81回・成海孝二／総会歓迎会、喜んで参加します。会費、参加費合計振込済。

82回・日下部朋子／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

84回・飯塚雅史／会費、年会費とも郵便局で振込済。当日は宜しくお願いいたします。

84回・星野紹英／総会参加します。参加費振込は銀行ネットバンキングで。

86回・吉井正行／総会参加致します。

88回・今井信一郎／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

89回・岩野尚子／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

89回・山田敏昭／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

90回・勝山達志／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

90回・斎藤 彰／7月29日の総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

90回・坪井俊樹／今年は当社の株主総会の準備やマンションの総会準備の為参加できません。7/31に新潟高校の生徒さんがIBM Japanを訪問することになりました。また報告します。引き続き宜しくお願い致します。

90回・渡邊修也／総会&新人歓迎会、もちろん参加します。会費と年会費共振込済。何かお手伝いすることがありましたら、なんなりとお申し付けください。

93回・杵淵雄一／郵送先不明

94回・笠井政義／総会出席します。94期プロフィール用のラグビー部花園の写真です。

94回・野崎雅恵／94期生のとりまとめ役は藤沢健司さんをお願いしました。事前プログラム、94期の皆さんも準備やアイデア素晴らしいですね。

94回・西尾 強／コロナをきっかけに仕事の方は東京から富山に軸足を移しましたが、徐々に東京に戻ってきております。総会は都合付けば出席予定です。

94回・藤沢健司／工藤様 早速のチラシ作成ありがとうございます。お手数ですが、昨日紙で配られていたチラシのデータをこちらのメンバーに展開いただけますでしょうか。

また、当日は事前にプロジェクターの動作を確認したいと思っております。

94回・遊佐浩子／藤沢様、94期皆様 青山ラグビークラブのホームページ興味深く拝見。フットワーク軽く原稿に取り掛かれるお力が素晴らしいです！つつがなく進行できるようにタイムキーパー努めます。チーンのお知らせとタイマー持参します。

94回・吉原直哉／松井みどりさんの「朗読」。プロフィール素案で、改訂依頼が来ております。お手数をおかけしますが、どうぞご検討いただければ幸いです。

94回・渡辺慎一／総会出席します。

101回・折笠智則／総会参加致します。会費、参加費合計振込済。

108回・本間彩子／突然メールします。関西から転勤で10年経ちますが、ふと東京青山のホームページで近く同窓会総会開催を知り是非参加致したく。参加費振込もHP例示の方法に従って行きます。どうぞよろしくお願い致します。

117回・畑山雅俊／総会での銀座「新潟県」オープンの紹介の件で、プロジェクター用資料を送りますよろしくお願い致します。当日、説明時の写真を撮ってください、報告のため。

113回・宗村泰孝／会報の送付先の変更をメール差し上げました。

119回・塙 孝哉／去年は4年振りの総会、皆様とお目にかかれることができてたいへん嬉しかったです。東大の近くに転居致しました。お手数をおかけし恐縮です。ご登録をどうぞよろしくお願い申し上げます。

126回・土田遼哉／使用するメールアドレスが変更になりますので、お知らせいたします。

127回・田中 舞／東京慈恵医科大卒業後、昨より新潟大学大学院医歯学総合研究科病態栄養学講座に転居しました。ご連絡が遅くなり申し訳ございません。そのため東京の同窓会のご連絡は不要でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

128回・敦井晴香／同窓会総会参加します。128回・原田幸歩／ぜひ同窓会総会参加します。元アナウンサーの朗読も楽しみです。

128回・本間千裕／初めて東京青山総会に参加させていただきたいと思ったのですが、郵便局支払が平日しかできず振り込みができませんでした。他の方法をご指示いただけますと幸いです。締切間近に申し訳ございません。銀行振込でしました。東京青山同窓会のホームページについて、今後定期的に確認させていただきます。また、できるだけ同窓会イベントにも参加させていただきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

130回・乙川文隆／総会参加致します。参加費追って振込ます。

130回・田村 旭／総会参加致します。参加費振込済です。

132回・新井壮大／総会参加致します。よろしくお願い致します。

132回・羽ヶ崎ひなた／今回は総会不参加です。

132回・大平葉摘／総会不参加。

132回・稲川俊介／元3の1幹事代理で参加させていただきます。よろしくお願い致します。

132回・齋藤惺葵／総会参加ぜひ出席したいです。総会当日、先輩のみなさまにお会い出来ることも楽しみにしております。

132回・本間佑一郎／誠に勝手ながら、大学の期末試験で総会歓迎会欠席させていただきます。代わりに同期の稲川俊介を幹事代理として立てさせていただきます。彼からも出席の旨連絡が参るかと思いますので、よろしくお願い致します。

132回・村尾泰治／総会参加させていただきます。よろしくお願い致します。

132回・吉田瑞希／総会は予定が合わないのと、金銭的な都合により参加できません。

132回・本間佑一郎／誠に勝手ながら、大学の期末試験で総会歓迎会欠席させていただきます。代わりに同期の稲川俊介を幹事代理として立てさせていただきます。彼からも出席の旨連絡が参るかと思いますので、よろしくお願い致します。

132回・村尾泰治／総会参加させていただきます。よろしくお願い致します。

132回・吉田瑞希／総会は予定が合わないのと、金銭的な都合により参加できません。

◆総会後R6年7月以降◆

81回・山田 徹／工藤先輩、早々の総会写真有り難うございます。また見ながら酒を飲みます。

84回・飯塚雅史／工藤先輩、いつもながら会の運営ありがとうございます。今年も楽しく、十分に堪能できました。また、写真の募集、いつもありがとうございます。一緒に集った先輩、仲間、後輩達の名前が分かってとても親密感が増しました。新潟総会、7月12日にまたお会いしましょう。よろしくお願い致します。

88回・今井信一郎／先日は、総会でお世話になりました、ありがとうございました。また、総会のレポートをお送り頂き、お礼申し上げます。皆さん、楽しんで映っていますね。これからは時間を作って、同窓会の集まりに参加したいと考えています。宜しくお願い致します。取り急ぎお礼まで。

94回・笠井政義／工藤さん、この写真のまとめ方、すばらしいですね！！1人1人の名前まで入れていただけて、本当にありがとうございます。工藤さんの献身的な下支えがあってこの会は成立していると思います。心よりお疲れ様です。次回の幹事の方々にも頑張ってほしいですね。

94回・藤沢健司／工藤様 総会写真の展開ありがとうございます。ダウンロードしました。また次回の集まりよろしくお願い致します。

101回・折笠智則／工藤事務局長様、先日の同窓会、遅くまでお疲れ様でした。大変お世話になりました。二次会の後、さらに同窓会の智則同士でもう1軒寄り、来年は100回の先輩がいるので出しゃばりすぎず精一杯頑張りたいと誓いを新たに別れました。付き合われた108回の本間彩子さんは災難だったのでしょうか…。毎日、暑い日が続いておりますので工藤事務局長もどうかご自愛ください。今後ともよろしくお願い致します。

117回・畑山雅俊／工藤様、総会ありがとうございます！またレポートもありありがとうございます。誠ににお手数をおかけして申し訳ありませんが、お手隙でいただいたレポートのP.40.41の画像の元データをいただけないでしょうか。大変恐縮ですが、何卒よろしくお願い致します。

128回・原田幸歩／写真を送っていただきありがとうございます。全ての写真に名前をつけるお仕事、お疲れ様でした。改めて写真をゆっくり見ると楽しい思い出が蘇ります。来年は兄と一緒に参加できれば嬉しいです。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。

128回・本間千裕／お世話になっております。お写真ありがとうございます！編集スキルに脱帽です。BCCにて送ってくださったファイルも、全参加者の名前が書かれてあり、同窓会を振り返ることができて楽しかったです。ありがとうございます！今後ともよろしくお願い致します。



年会費納入者一覧 ; R6.4.1~ R6.9.30

<< 2024 (R6) 年度 ・ 上半期 >>

56回(2名) 井上菊雄 加藤勝則	71回(5名) 内山博勝 太田 裕 柄沢 卓 堀 清忠 松田裕子	76回(25名) 明村澄雄 阿部緑生 天野直二 岩橋俊朗 大竹力三 尾張明美 加澤正樹 賀谷彰夫 木下正仁 後藤徳広 小松澄子 小宮山信男 近藤壽邦 鈴木茂夫 田中邦直 太原本ゆみ 中川英二 長北 学 西沢芳樹 八田進二 長谷川邦良 細谷洋一 湊 勝 湯本雅恵 渡辺 拡	83回(5名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 高山佳郎	第102回(1名) 尾口優子	◆他 ; 複数年 前納者 (合計除外) ・74回 岡村康生 (5年分 ~ 2027) ・74回 青海 潔 (5年分 ~ 2024) ・74回 川田澄子 (5年分 ~ 2027) ・84回 星野紹英 (25年分 ~ 2045) ・84回 野口俊介 退会5年分 ~ 2028 ・101回 浅香美貴 (5年分 ~ 2027)	◆他 ; ご寄付 ・77回 佐藤 茂 5千円 ・80回 長 正子 1万円
59回(2名) 梅沢貞雄 茂泉喜彦	72回(8名) 金巻裕史 小林正昭 小島修一 近藤 正 齊藤俊正 富田由季 中地光子 古山恒夫	77回(6名) 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 時岡高志 長谷川実 山田民夫	84回(4名) 飯塚雅士 田中昌夫 塙 昌樹 星野郁夫	第103回(2名) 伏見千尋 鷲尾英一郎	集計(~ 2024. 9. 30) 納付者数計 246名 納付額計 488千円	◆本会運営は 年会費にて。 納付ご協力お 願います◆
60回(4名) 金山常吉 杉野剛博 中田 亨 早川貞夫	73回(3名) 雨宮則夫 飯村 修 山田美成	78回(8名) 石丸隆夫 太田秀樹 斎藤庫之丞 志藤洋子 須田幸子 肥田博子 村田光男 吉澤哲彦	85回(4名) 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 森 大輔	第105回(1名) 成澤 良	目標 300名 60万円	
61回(5名) 安宅久憲 小林元雄 徳田晋也 長沼雄峰 村山 健	74回(34名) 藍沢幹人 味方冽 石井明 池田正行 池田 裕 和泉 潤 岩城修平 薄田祥子 大石憲一 大田正孝 大滝 均 大竹海二 加藤 博 工藤義夫 小林淳子 斎藤一幸 坂井 靖 坂爪久男 佐藤俊栄 (名不掲載) 佐藤正也 関川修一 高橋 保 高橋信郎 田中秀明 田村栄作 土屋彰義 中村義一 西田百合子 橋本昭一郎 平井ゆき子 丸山直人 若林源基 渡部終五	79回(6名) 内山 修 小田章治 河 正子 川上康夫 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子	86回(3名) 吉井正行 斎藤 健 山内豊明	第106回(1名) 三田和弘		
62回(3名) 曾我 健 帆刈宏典 渡辺千里	75回(10名) 五十嵐 正 大塚恵子 笠井 忠 白鳥十三 鈴木正夫 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 藤井建一 藤縄利勝	80回(1名) 長 正子	87回(2名) 清水忠明 渡辺政城	第108回(1名) 本間彩子		
63回(1名) 浅野康一	76回(8名) 石井明 池田正行 池田 裕 和泉 潤 岩城修平 薄田祥子 大石憲一 大田正孝 大滝 均 大竹海二 加藤 博 工藤義夫 小林淳子 斎藤一幸 坂井 靖 坂爪久男 佐藤俊栄 (名不掲載) 佐藤正也 関川修一 高橋 保 高橋信郎 田中秀明 田村栄作 土屋彰義 中村義一 西田百合子 橋本昭一郎 平井ゆき子 丸山直人 若林源基 渡部終五	81回(4名) 荒川 洋 越野昌芳 成海孝二 山田 徹	88回(3名) 吉井正行 斎藤 健 山内豊明	第109回(1名) 酒井優理子		
64回(3名) 太田健治 高橋正幸 星 満	77回(6名) 片山 等 北村一雄 佐藤 茂 時岡高志 長谷川実 山田民夫	82回(4名) 日下部朋子 斎藤 滋 福嶋 元 宮村伸一	89回(2名) 岩野尚子 山田敏昭	第110回(1名) 酒井優理子		
65回(5名) 安藤宣清 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二	78回(8名) 石丸隆夫 太田秀樹 斎藤庫之丞 志藤洋子 須田幸子 肥田博子 村田光男 吉澤哲彦	83回(5名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 高山佳郎	90回(11名) 雨夜喜美子-1 雨夜喜美子-2 勝山達志 木村和人 小林美奈子 斎藤 彰 坪井俊樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也	第111回(3名) 岡村晋之祐 小甲洋輔 宮崎美紀		
66回(2名) 石山芳春 稻月喜一	79回(6名) 内山 修 小田章治 河 正子 川上康夫 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司 林 綾子	91回(1名) 前田光俊	92回(1名) 今井信一郎	第112回(1名) 畑山雅俊		
67回(5名) 岡崎 功 小野勝義 佐々木邦夫 清水雄伍 寺井 宏	80回(1名) 長 正子	93回(1名) 近 貴志	94回(6名) 笠井政義 塚田健司 野崎雅恵 藤沢健司 吉原直毅 遊佐浩子	第113回(1名) 新井壮大		
68回(6名) 上村嶺子 草野 佐 竹石 肇 濱田庄司 渡邊公夫 渡邊千艦	81回(4名) 荒川 洋 越野昌芳 成海孝二 山田 徹	94回(6名) 笠井政義 塚田健司 野崎雅恵 藤沢健司 吉原直毅 遊佐浩子	95回(1名) 間島拓也	第114回(1名) 寺井 悠		
69回(2名) 小黒朋弘 矢川一義	82回(4名) 日下部朋子 斎藤 滋 福嶋 元 宮村伸一	96回(1名) 君和田俊裕	97回(2名) 小林一大 吉原貴之	第115回(3名) 岡村晋之祐 小甲洋輔 宮崎美紀		
70回(4名) 池田好正 猪口 孝 渡部美那実 渡辺允雄	83回(5名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 高山佳郎	98回(1名) 間島拓也	99回(1名) 君和田俊裕	第116回(1名) 塙 孝哉		
	84回(4名) 飯塚雅士 田中昌夫 塙 昌樹 星野郁夫	99回(1名) 君和田俊裕	100回(2名) 小林一大 吉原貴之	第117回(1名) 畑山雅俊		
	85回(4名) 今井豊重 奥村 基 塩田拓哉 森 大輔	100回(2名) 小林一大 吉原貴之	101回(1名) 折笠智則	第118回(1名) 会田俊貴		
	86回(3名) 吉井正行 斎藤 健 山内豊明	101回(1名) 折笠智則		第119回(1名) 塙 孝哉		
	87回(2名) 清水忠明 渡辺政城			第120回(1名) 新井壮大		
	88回(3名) 吉井正行 斎藤 健 山内豊明					
	89回(2名) 岩野尚子 山田敏昭					
	90回(11名) 雨夜喜美子-1 雨夜喜美子-2 勝山達志 木村和人 小林美奈子 斎藤 彰 坪井俊樹 中村 泰 樋口正史 森 豊 渡辺修也					
	91回(1名) 前田光俊					
	92回(1名) 今井信一郎					
	93回(1名) 近 貴志					
	94回(6名) 笠井政義 塚田健司 野崎雅恵 藤沢健司 吉原直毅 遊佐浩子					
	95回(1名) 間島拓也					
	96回(1名) 君和田俊裕					
	97回(2名) 小林一大 吉原貴之					
	98回(1名) 間島拓也					
	99回(1名) 君和田俊裕					
	100回(2名) 小林一大 吉原貴之					
	101回(1名) 折笠智則					

◆会員ご計報◆(敬称略)
2023(R5).10 ~ 2024(R6).9月までの把握分。
心より ご冥福を お祈り申し上げます。

卒回	ご氏名	逝去日
52	斎藤泰五郎	2024.5. (96歳)
53	中島恒雄	2024.3.5 (95歳)
61	時岡 泰	2024.1.7 (91歳)
62	帆刈宏典	2023.11.11
63	白倉 至	2024.2.3 (89歳)
64	榊潟晴夫	2023.8.24
74	薄田祥子 (旧姓:井上)	2024.8.15 (77歳)



◆ 会計状況 ; 2024年度・上半期 ◆

2024年度予算/同・上期実績/2024年度見込				
決算期 (令和5年4月1日~令和6年3月31日)				
◆2024(令和6) 年9月30日 現在 (金額:円)				
摘 要	令和6年度計画 (2024.4.1 ~ 2025.3.31)	令和6年度 上期実績 (2024.4.1 ~2024.9.30)	令和6年度見込 (2024.4.1 ~ 2025.3.31)	備 考 (令和6年度分)
期首現預金残高	914,472	914,472	962,052	
収 入				
年 会 費	600,000	488,000	600,000	300名 予定
総 会 会 費	600,000	551,000	551,000	総会兼新人歓迎会 6月29日 昼
寄 付	100,000	100,000	100,000	青山同窓会から
雑 収 入 計	0	0	0	
受 取 利 息	12	1	2	
合 計	1,300,012	1,139,001	1,251,002	
支 出				
総 会 費 用	700,000	692,750	692,750	総会兼新人歓迎会 6月29日 昼
ますらお会補助	50,000	0	50,000	第5回 ; 11/15
会報通信費	650,000	298,476	600,000	第75号 ; 10月
事務局費	50,000	64,000	64,000	人件費、出張費等
インターネット ホームページ費	15,000	0	7,473	ホームページ、サー バーレンタル料等 (R6年分) ベース
会 議 費	0	0	0	会議 ; なし
手 数 料	55,000	33,704	55,000	
雑 費	0	2,491	4,000	
合 計	1,520,000	1,091,421	1,473,223	
期末現預金残高	694,484	962,052	739,831	

注1) 新会計年度期間 : 2024年度 (R6.4.1~ R7.3.31の1年間)